

第6次環境ボランティアプラン【2017～2020年度】地球温暖化対策

領域	項目	2020年度までの 目標・取り組み	2019年度		2020年度 目標・取り組み	
			目標	実績		
	燃費の向上	◆フルモデルチェンジおよび年次改良ごとの継続的な燃費改善を図る	◇環境エンジンへの刷新、カテゴリトップレベルの燃費性能の実現 ◇水平対向直噴ダウンサイジングターボエンジンの市場導入	・新型パワーユニット「e-BOXER」を搭載した新型Forester、SUBARU XVのグローバル展開を拡大する ・ダウンサイジングターボエンジン搭載車の量産開発を完了し、量産準備へ移行する	・新型パワーユニット「e-BOXER」を搭載した新型Forester、SUBARU XV、IMPREZZA-WAGONを欧州、日本、中国、豪州へ投入した ・ダウンサイジングターボエンジン搭載車、次期レヴォーグの量産開発を3月末までに完了させる見通しを立てて一部量産準備へ移行した	・ダウンサイジングターボエンジン搭載車、次期レヴォーグ、フォレスターを市場導入する ・ストロングハイブリッドの先行開発に着手、量産に向けて開発を推進する
商品	クリーンエネルギーの利用 自動車	◆電動車両の導入推進	◇2018年にプラグインハイブリッド車を主要市場に導入 ◇電気自動車の市場導入を目指した研究推進	SUBARUが培ってきた技術をトヨタ自動車との共同開発に反映させ、量産化を想定した次期電動車の基礎先行開発の見直し付けを進める	・トヨタ自動車と中・大型乗用車向けのEV専用プラットフォーム、およびCセグメントクラスSUVモデルEVの共同開発に着手 ・THS搭載車両の拡大を検討し、性能、搭載課題の見直し付けを完了した	2020年1月20日にメディア発表した環境目標を達成すべく、トヨタ自動車と共同開発EVの開発推進とTHS搭載車両の量産開発への移行を実施する
	道路交通改善-IT技術(自動運転技術・予防安全技術)	◆先進運転支援システムの展開拡大と、自動運転技術の開発に取り組み、事故を未然に防止する技術開発をさらに前進させ、事故による渋滞の防止と運転支援技術での交通流改善によるCO ₂ 削減に貢献	◇先進運転支援システム「アイサイト」を中心とした運転支援技術・予防安全技術の技術開発を推進し、より多くの市場に拡大展開 ◇2017年に高速道路限定で同一車線をキープするトラフィック・ジャム・アシスト機能を市場導入 ◇2020年に車線変更を含めた高速道路自動運転機能を市場導入	・2030年に死亡交通事故ゼロを目指す開発を推進する。「アイサイト・ツーリングアシスト」の拡大展開や、アセスメントを活用した事故被害軽減技術の周知・普及拡大を中心に、高度運転支援システムの技術開発を継続的に推進する ・SIP/ASVなどの産官学の推進計画に沿った活動を継続的に推進する	・2019年秋にフルモデルチェンジした北米のレガシィ・アウトバックや、国内のインプレッサに「アイサイト・ツーリングアシスト」を拡大展開した ・インプレッサが2018年度JNCAP予防安全性評価において最高評価のASV+++を獲得した ・2020年に市場導入を目指す高速道路自動運転機能についての技術開発を進捗	・2030年に死亡交通事故ゼロを目指す開発を推進する ・新世代アイサイトの投入や、第三者評価を活用した事故被害軽減技術の周知・普及拡大を中心に、高度運転支援システムの技術開発を継続的に推進する ・SIP/ASV等の産官学の推進計画に沿った活動を継続的に推進する
生産	生産工場	◆国内生産工場からの生産額あたりCO ₂ 排出量を削減 ◆海外生産工場※1からのCO ₂ 排出量の削減活動を推進	◇国内生産工場からの生産額あたりCO ₂ 排出量を2020年度までに2006年度比14%削減 ◇海外生産工場からのCO ₂ 排出量の中期目標を設定し、継続的な削減活動を推進	国内生産工場からの生産額あたりCO ₂ 排出量を2006年度比13%削減する 可能な限りのCO ₂ 抑制と次期アクションプラン下での大幅な削減を検討していく	国内生産工場からの生産額あたりCO ₂ 排出量を2006年度比38%削減 12月新設の技術トレーニングセンターに太陽光発電パネルを設置。施設電気使用量の半分をまかなうほか、照明にLED・モーションセンサーを導入し省エネCO ₂ 削減に貢献した	国内生産工場からの生産額あたりCO ₂ 排出量を2020年度までに2006年度比14%削減 引き続き省エネ・再エネ設備導入の検討を行うと同時に、生産拡大に伴うエネルギー増加との均衡を検討していく
物流・販売	物流	◆省エネ法と同期したCO ₂ 削減への対応推進	◇CO ₂ 排出原単位を2006年度をBMとし、毎年度1%低減	引き続き省エネ法と同期させた取り組みとし、2006年度実績をBMに年1%低減を目標とする	・引き続き年1%低減を達成 ・2019年度のCO ₂ 排出量目標原単位は30.02kg/台(基準年2006年度比毎年▲1%累計)に対し、実績は27.05kg/台と達成	2006年度実績をBMに年1%低減を目標とする

※1 Subaru of Indiana Automotive, Inc.